

October 14, 2021

【前日の為替概況】ドル円 米インフレ加速で113.80円まで上昇後、113.23円まで反落

13日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは3営業日ぶりに反発。終値は1.1594ドルと前営業日NY終値(1.1530ドル)と比べて0.0064ドル程度のユーロ高水準だった。注目の9月米消費者物価指数(CPI)が前月比0.4%/前年比5.4%と予想の前月比0.3%/前年比5.3%を上回ったことが分かると、ドル買いで反応し一時1.1536ドル付近まで下げたものの、アジア時間に付けた日通し安値1.1528ドルが目先サポートとして働くと買い戻しが優勢に。米長期金利の指標である米10年債利回りが1.52%台まで低下したことを受けて、全般ドル売りが活発化すると、一時1.1597ドルと日通し高値を更新した。米30年債入札の好調な結果を受けて、米長期金利が低下傾向を強めたこともドル売りを誘った。

なお、米連邦準備理事会(FRB)が公表した9月21日-22日分の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨では「11月の次回会合でテーパリング(量的緩和の縮小)開始を決めた場合、11月中旬か12月中旬に始めることができる」と議論した。また、テーパリングでは国債が月額100億ドル、MBSが月額50億ドルで実施される方針を議論したことが明らかになった。

ドル円は5日ぶりに反落。終値は113.25円と前営業日NY終値(113.61円)と比べて36銭程度のドル安水準だった。予想を上回る米CPIを受けてドル買いが先行すると、一時113.80円と2018年12月以来約2年10カ月ぶりの高値を付けた。米長期金利の低下を受けて全般ドル売りが強まると、アジア時間の安値113.35円を下抜けて一時113.23円まで値を下げた。その後の戻りも113.50円付近にとどまり、引けにかけては再び弱含んだ。

20カ国・地域(G20)財務相・中央銀行総裁会議は「中央銀行は物価の責務を果たすため必要に応じて行動する」「中央銀行は一過性のインフレを注意して観察する」との声明を発表した。

ユーロ円は5日続伸。終値は131.30円と前営業日NY終値(130.99円)と比べて31銭程度のユーロ高水準。ユーロドルの上昇につれた円売り・ユーロ買いが出たほか、一時は260ドル超下落したダウ平均が持ち直したことも相場の押し上げ要因となり、3時30分過ぎには131.47円と日通し高値を更新した。

【本日の東京為替見通し】豪9月雇用統計や中国9月インフレ率、中国恒大デフォルトに要注目

本日の東京外国為替市場のドル円は、米10年債利回りが1.53%台に低下していることで上値が重い展開が予想される。

注目されていた9月米消費者物価指数(CPI)は、前月比+0.4%、前年比+5.4%と予想を上回ったものの、エネルギーと食品を除くコア指数が前年比+4.0%とほぼ予想通りだったことで、過度なインフレ懸念が後退している。しかしながら、WTI原油先物価格は依然として80ドル台で推移していることで、ドル円の下値は限定的か。

ジョージ・ソロス氏が「中国版リーマン」の可能性を警告し、習中国国家主席が「灰色のサイ」の可能性を警告していた中国恒大集団は、3回の利払いを履行しなかったことで、10月18・19日にデフォルト(債務不履行)を宣言するのではないかと警戒感が高まっており、関連ヘッドラインに要警戒となる。

ドル円のオーダー状況は、上値には、113.80円にドル売りオーダー、超えるとストップロス買い、114.00円にドル売りオーダーが控えている。下値には、113.00円にドル買いオーダーと14日、15日のNYカットオプションが控えている。

9時30分に発表される9月豪雇用統計の予想は、失業率が4.8%で8月の4.5%から上昇、新規雇用者数は13.75万人の減少で8月の14.63万人減少からの改善が見込まれている。先週の豪準備銀行(RBA)理事会での声明では「完全雇用への復帰と目標と一致するインフレを達成するために、非常に支援的な金融条件を維持することをコミット」と雇用情勢重視のスタンスが表明された。9月の失業率が予想通りに悪化していた場合、豪準備銀行(RBA)の金融緩和は長期化する可能性が高まり、豪ドルの売り要因となる。

10時30分に発表される9月中国消費者物価指数(CPI)の予想は前年比+0.9%で、8月の前年比+0.8%から上昇、9月中国生産者物価指数(PPI)の予想は前年比+10.5%で、8月の前年比+9.5%からの上昇が見込まれている。原油価格などの上昇を背景にインフレ率が上昇基調にあるものの、景気低迷も懸念されるスタグフレーションへの警戒感が高まっており、ポジティブサプライズに要警戒か。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）
- 10:30 ◇ 野口旭日銀審議委員、あいさつ
- 13:30 ◇ 8月鉱工業生産確報
- 13:30 ◇ 8月設備稼働率
- 衆院解散

<海外>

- 08:01 ◇ 9月英王立公認不動産鑑定士協会（RICS）住宅価格（予想：68）
- 09:00 ◎ 7-9月期シンガポール国内総生産（GDP）速報値（予想：前期比年率 1.1%）
- 09:00 ◎ シンガポール金融通貨庁（MAS）、金融政策発表
- 09:00 ◎ ボウマン米連邦準備理事会（FRB）理事、講演
- 09:30 ◎ 9月豪雇用統計（予想：失業率 4.8%／新規雇用者数▲13.75万人）
- 10:30 ◎ 9月中国消費者物価指数（CPI、予想：前年比 0.9%）
- 10:30 ◎ 9月中国生産者物価指数（PPI、予想：前年比 10.5%）
- 15:30 ◇ 9月スイス生産者輸入価格
- 15:30 ◎ 9月インド卸売物価指数（WPI、予想：前年比 11.10%）
- 16:30 ◎ 9月スウェーデン消費者物価指数（CPI、予想：前月比 0.6%／前年比 2.7%）
コア指数（予想：前月比 0.7%／前年比 3.0%）
- 19:05 ◎ エルダーソン欧州中央銀行（ECB）専務理事、講演
- 19:10 ◎ テンレイロ英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 21:30 ◇ 8月カナダ製造業出荷（予想：前月比 0.5%）
- 21:30 ◎ 9月米卸売物価指数（PPI、予想：前月比 0.6%／前年比 8.7%）
◎ 食品とエネルギーを除くコア指数（予想：前月比 0.5%／前年比 7.1%）
- 21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数／失業保険継続受給者数（予想：31.9万件／267.5万人）
- 21:30 ◎ クノット・オランダ中銀総裁、講演
- 21:35 ◎ ブラード米セントルイス連銀総裁、バーチャルディスカッションに参加
- 23:00 ◎ ポスティック米アトランタ連銀総裁、パネルディスカッションに参加
- 23:40 ◎ マン英中銀 MPC 委員、講演
- 24:00 ◇ EIA 週間在庫統計
- 15日 02:00 ◎ バーキン米リッチモンド連銀総裁、講演
- 15日 02:00 ◎ デイリー米サンフランシスコ連銀総裁、講演
- 15日 03:00 ◎ カンリフ英中銀（BOE）副総裁、講演
- 香港（重陽節）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

13日 05:37 ブラード米セントルイス連銀総裁
「11月のテーパリング開始を支持」
「テーパリングを2022年第1四半期までに終了したい」
「労働市場に活気がある。失業率は来春には4%を下回る公算」

13日 09:12 エスキベル・メキシコ中銀副総裁
「利上げはCPIにとって逆効果」

13日 13:41 岸田首相
「(日銀保有国債の一部永久国債化)慎重に検討が必要」
「為替動向についてコメントを控えたい」

13日 20:31 20カ国・地域(G20)財務相・中央銀行総裁会議・共同声明草案
「世界的なインフレ動向を注意深く監視、必要に応じて行動」
「経済協力開発機構(OECD)合意の国際課税改革を支持、より安定的・公平な税制につながる」

13日 20:45 石油輸出国機構(OPEC)月報
「2021年の石油需要の見通しを従来の日量596万バレルから、582万バレルに下方修正」
「2022年の需要見通しは日量415万バレルに据え置き」
「8月時点のOPEC商業用石油在庫を28.55億バレルと推計、5年平均を1.83億バレル下回る水準」
「2021年・2022年の原油需要見通しをそれぞれ10万バレル引き上げ、日量2780万バレル・2880万バレルに修正」
「9月の産出は日量49万バレル増加、2733万バレルに」

14日 02:21 20カ国・地域(G20)財務相・中央銀行総裁会議・共同声明
「中央銀行は物価の責務を果たすため必要に応じて行動する」
「中央銀行は一過性のインフレを注意して観察する」

14日 03:00 米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
「テーパリングは11月中旬か12月中旬に開始する可能性」
「段階的テーパリングは来年半ば頃に終了する可能性」
「当局者はインフレの上サイドのリスクを指摘」
「当局者はインフレが来年も高水準を維持すると指摘」

「当局者はインフレ見通しを引き上げるとともに一過性と判断」

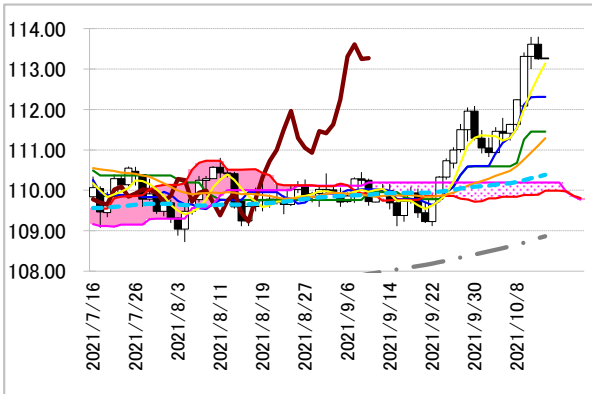
「物価面でのテーパリング開始条件はすでに満たされたとの指摘」

「テーパリングは国債が月額100億ドル、MBSが50億ドルで実施される見通し」

「一部の当局者は債券購入が金融リスクを高めると指摘」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

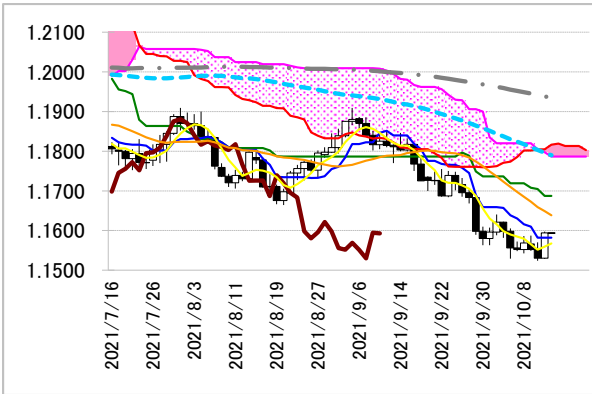


<ドル円=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。4手連続陽線で上昇後、抱き線で反落したものの、転換線を上回って引けていることで反発の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	114.55(2018/10/4 高値)
レジスタンス 1	113.80(10/13 高値)
前日終値	113.25
サポート 1	112.31(日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	111.46(日足一目均衡表・基準線)

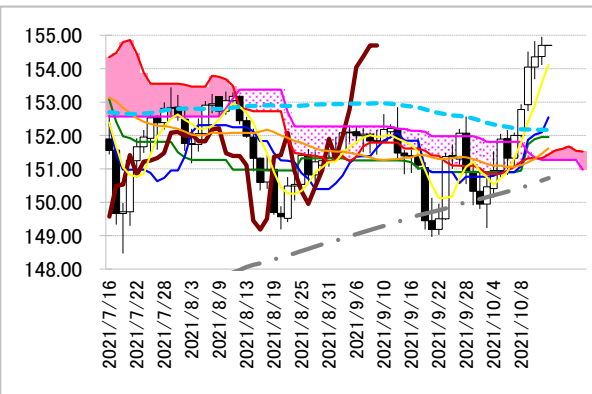


<ユーロドル=10/12 安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。しかし、2手連続陰線で下落後に抱き線で反発、転換線を上回って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。

本日は、10月12日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1688(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.1594
サポート 1	1.1524(10/12 安値)

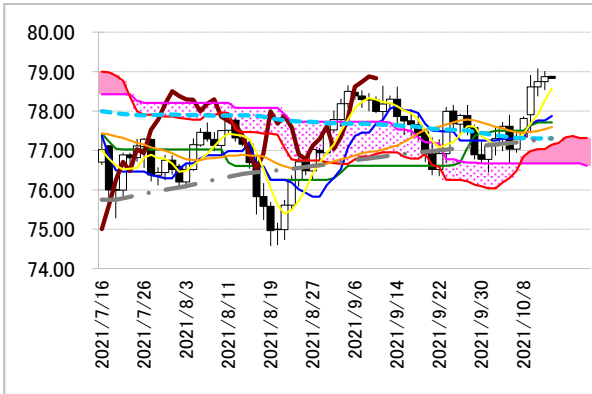


<ポンド円=10/13 安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。5手連続陽線で上昇し、転換線を上回って引けており続伸の可能性が示唆されている。

本日は、10月13日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	155.49(6/15 高値)
前日終値	154.70
サポート 1	154.12(10/13 安値)



<NZドル円=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。5手連続陽線で上昇し、転換線を上回って引けており続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	80.14(5/28 高値)
前日終値	78.88
サポート 1	77.87(日足一目均衡表・転換線)

